



# 知床科学委員会 しんぶん

## エゾシカ・陸上生態系

### ワーキンググループ NO. 8



「知床で今何が起きているの!」「どんな調査が行われているの!」など、タイムリーな情報をお伝えします。

#### エゾシカ・陸上生態系 ワーキンググループって?

知床半島で、エゾシカや陸上生態系の管理をどのように進めるのか議論するための会議です。

この会議での意見をもとに、さまざまな事業が進められています。

#### 今回の会議

10月1日(水) 釧路地方合同庁舎にて、今年度第2回目の会議がありました。

必見!  
TOPIC

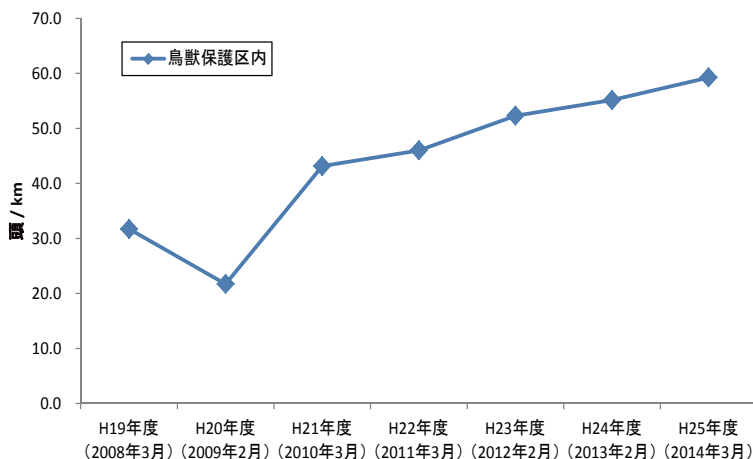
### 遺産隣接地域でのエゾシカ捕獲、さらに本格化!

斜里町のウトロからオシンコシンの滝付近までの海岸沿いの細長い森林は、世界遺産地域ではありませんが、鳥獣保護区になっているためエゾシカが増加し、森林に樹皮はぎ等の被害が出ていました。

北海道森林管理局(林野庁)は、昨年度からこの鳥獣保護区内の国有林で特別許可によるエゾシカ捕獲を開始し、計 132 頭を捕獲

しました。今年度の冬は、ウトロ東～真鯉で囲いワナ等の設置場所をさらに大幅に増やし、より本格的に、多数のエゾシカを捕獲する予定です。

なお捕獲されたエゾシカは、食肉やペットフード等に無駄なく活用されます。



斜里町三段の滝～オシンコシンにおける冬期のエゾシカ発見頭数(国道沿いのシカをカウント、各年度の最高値)

※知床財団独自調査データ

遺産隣接地域でのエゾシカの数はこちら数年徐々に増えているんだね



遺産隣接地域内の囲いワナで捕獲されたエゾシカ (2013年度)

## 今回主に話し合ったこと

- ① 今冬の知床世界自然遺産地域及び隣接地域におけるエゾシカ捕獲手法の検討
- ② 遺産地域内におけるエゾシカ個体数調整に係る中長期的な考え方
- ③ エゾシカ知床地域個体群の質の把握方法

**注目!**

### 知床のエゾシカが小型化か?

生息密度の増減によって、ある地域のエゾシカの体サイズや体重が、集団全体で変化することが他地域の研究で知られています。知床のエゾシカも高密度状態が長期間続いたため、餌不足から体が小さくなってきている可能性が以前から指摘されていました。今回、過去30年分のデータを詳しく比較・解析した結果が初めて報告されました。

隣接地域に比べて、エゾシカの体サイズが小型化していたことが示されました。ちなみに体サイズは、計測部位をよく選ばないと人による測定誤差が大きくなります。計測部位として適しているのは、後足長（つま先からカカトまでの長さ）と下アゴの骨の長さ（3ヶ所）です。

それによれば、エゾシカの生息密度が高い遺産地域内の方が、密度の低い遺産



密度によって体の大きさが変わるんだね!

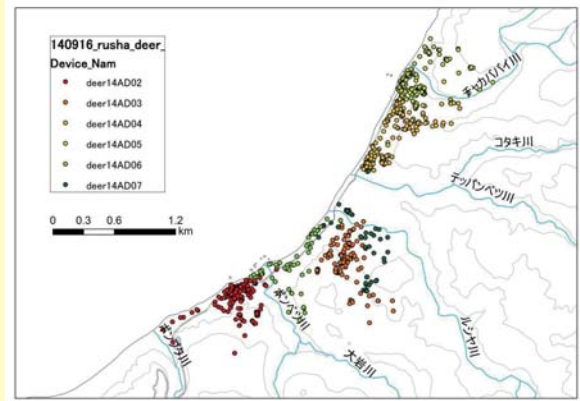


(左) エゾシカの下顎骨  
(下) エゾシカの後足長



**注目!**

### ルシヤ地区のエゾシカ行動調査中間報告



前回の当新聞で「ルシヤ地区でエゾシカの行動調査スタート」とお知らせした調査の、結果の中間報告です。会議時点で6頭のエゾシカにGPS首輪が装着されました。上の図は個体ごとに色分けして、12時間ごとに各個体がいた位置を示したものです。

どの個体も今のところ、捕獲地点から1〜2 km程度の狭い範囲内で行動しています。現在はあまり大きな動きがありませんが、冬になつたらどこへ移動するのか、あるいは移動しないのか、あるいは移動しないのか、今後が注目されます。

なお、11月末には更に4頭のエゾシカを追加捕獲し、GPS首輪を装着しました。

委員の間野です。



北大クマ研でヒグマに関わって35年、全道のヒグマのモニタリングと保護管理の研究に取り組んでいます。

ここ知床の地では、日本を代表する国立公園にふさわしい、ヒグマに対する先進的な取り組みが地域主導で進められてきました。しかし敵も然る者、人間の態度を速やかに読み取って人間の迷惑の裏をかき、あるいは気候変動やエゾシカの激増など環境条件の変化に合わせてその行動を変化させる、実に手強い相手であることを学び続ける日々です。世界自然遺産にふさわしい人間とクマのあり方について、両者の知恵が問われています。

委員 間野 勉

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター  
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます!



■問合せ先■  
環境省釧路自然環境事務所  
〒085-8639  
北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階  
TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575